

3月の安全運転のポイント 平成20年3月号

平成20年の交通事故発生状況	発生件数	766,147件	(前年比 - 66,307件 - 8.0%)
	死者数	5,155人	(前年比 - 589人 - 10.3%)
	負傷者数	945,504人	(前年比 - 88,941人 - 8.6%)

平成20年の交通事故による死者数は8年連続の減少となるとともに、昭和28年以来54年ぶりに5千人台となった前年を更に下回りました。また、負傷者数は10年ぶりに100万人を下回りました。

今月は平成20年の交通死亡事故の主な特徴をまとめてみました。(資料は、警察庁「平成20年中の交通死亡事故の特徴及び道路交通法違反取締状況について」による)

*死者数とは、交通事故発生から24時間以内に死亡した人数をいいます。

65歳以上の高齢者が死者の半数近くを占める

年齢層別に死者数を見てみると、65歳以上の高齢者が2,499人で最も多く、全体の48.5%を占めています(図1)。

高齢歩行者、高齢者の乗った自転車や二輪車、高齢運転者標識を付けた車には十分に目を配り、高齢者を保護するという気持ちをもって運転しましょう。

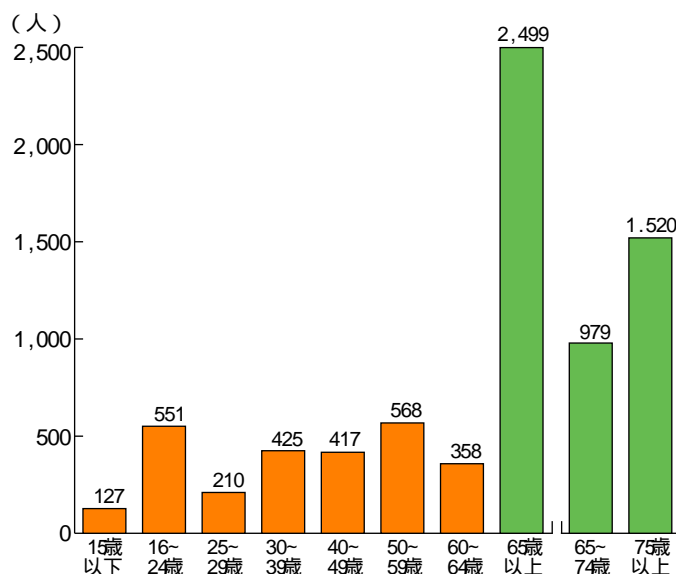


図1 年齢層別死者数 (平成20年)

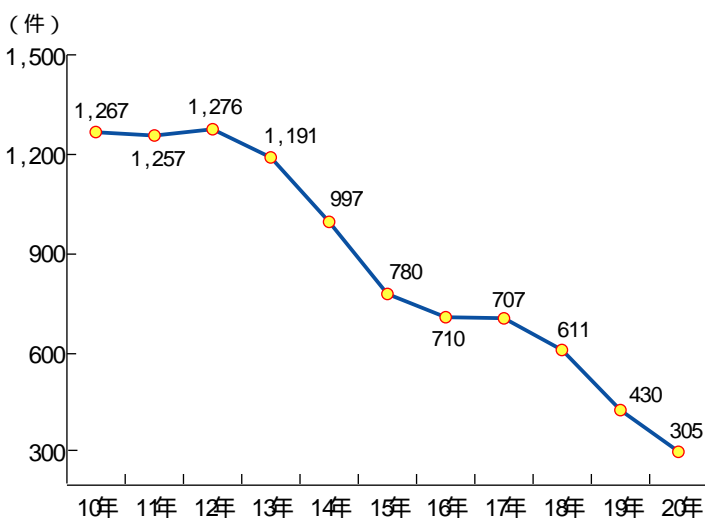


図2 原付以上運転者(第1当事者)の飲酒運転による死亡事故件数の推移 (平成10~20年)

飲酒運転による死亡事故は大きく減少

原付以上運転者(第1当事者)の飲酒運転(酒酔い運転・酒気帯び運転)による死亡事故件数は305件(前年比 - 125件、- 29.1%)で、10年前の4分の1以下となりました(図2)。

飲酒運転は社会的犯罪ですから、今後も「飲酒運転をしない、させない」を徹底し根絶を図っていく必要があります。

死亡事故の4件に1件は人対車両の「横断中」の事故

死亡事故件数を事故類型別にみると（図3）、次のようになります。

車両相互 2,309件 (46.0%)

人対車両 1,692件 (33.7%)

車両単独 985件 (19.6%)

このうち、人対車両の「横断中」が1,242件（24.7%）で最も多く、死亡事故の4件に1件は、横断中の歩行者との事故です。

交差点の右左折時はもちろん、住宅街などの道路を走行するときは、横断歩行者に十分注意しましょう。

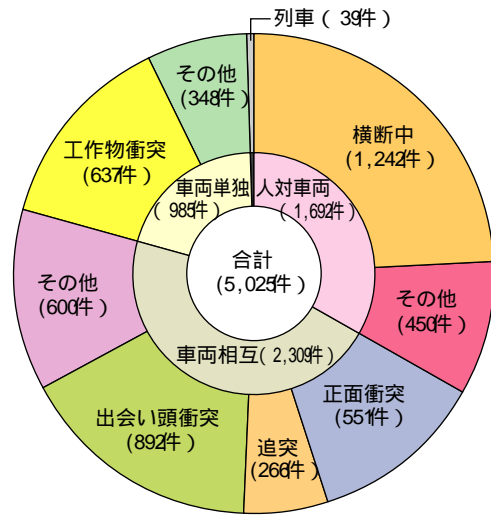


図3 事故類型別死亡事故件数 (平成20年)

漫然運転による死亡事故が最も多い

車両（原付以上）運転者が第1当事者となった死亡事故件数を法令違反別にみると、安全運転義務違反の中の「漫然運転」が727件（15.6%）と最も多く、次いで「脇見運転」が680件（14.6%）となっています（図4）。

ちょっとした気の緩みが重大な事故につながります。どんなときでも決して油断せず、前方の状況にしっかり目を配って走行しましょう。

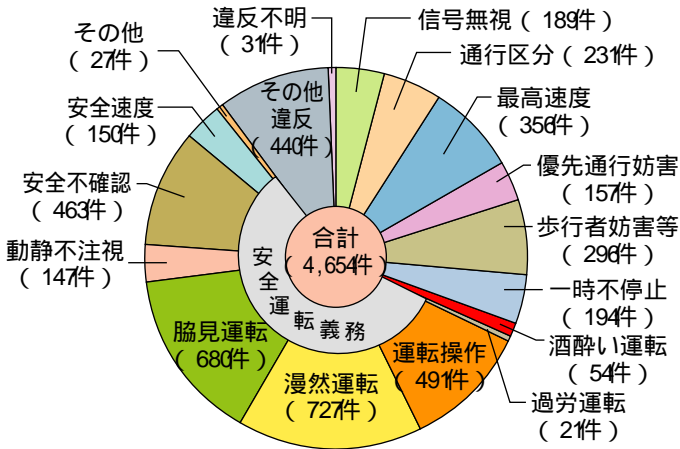


図4 原付以上運転者（第1当事者）の法令違反別死亡事故件数 (平成20年)

* 「漫然運転」とは、「運転以外のことを考えていた」、「ぼんやりしていた」などにより、相手の発見が遅れたり、見落とししたりして事故を起こした場合をいいます。

死亡事故の半数近くは交差点内とその付近で発生

死亡事故件数を道路形状別にみると、交差点内が1,922件（38.2%）、交差点付近が482件（9.6%）を占め、交差点内と交差点付近を合わせると47.8%となり、死亡事故の半数近くが交差点内とその付近で発生しています（図5）。

交差点は最も死亡事故が起こりやすい場所ですから、周囲の状況に十分注意して慎重な運転を心がけましょう。

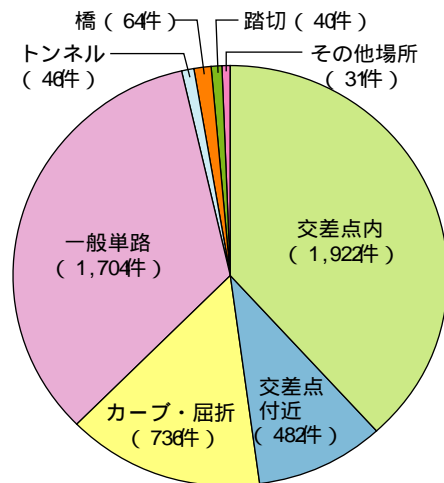


図5 道路形状別死亡事故件数 (平成20年)

「ご相談・お申込先」